

平成23年度 シラバス	学年・期間・区分	4年次・後期・A群	
	対象学科・専攻	電子制御学科	
電磁気学Ⅱ (Electric magnetic theory Ⅱ)	担当教員	新田 敦司 (Nitta, Atsusi)	
	教員室	機械工学科及び土木工学科棟2階 (Tel. 42-9068)	
	E-Mail	nitta@kagoshima-ct.ac.jp	
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義/学修単位[講義Ⅰ]/1単位		
週あたりの学習時間と回数	[授業 (100分) + 自学自習 (80分)] × 15回		
[本科目の目標] 3年次の電磁気学Ⅰで学んだ各種現象や法則について、数式にベクトルを用いた表現法について理解し、ベクトル解析について習得する。さらには、電磁気学の法則がマクスウェル方程式にまとめられることを理解し、これを用いた各種問題解決手法の習得を目標とする。			
[本科目の位置付け] 電磁気学Ⅰにおいて扱うことのできなかつた項目の補足を含め、ベクトルによる数式の表現を用い、ベクトル解析など数学的な手法を駆使した問題解決を行う。			
[学習上の留意点] 微分・積分などを多用した講義となり、新たな数学的手法もここで学ぶことになるので、3年次までに学んだ数学についてはしっかりと復習し理解しておくことが必要である。また、理解を深めるためにも数式で表現され電気磁気の現象については、常にそのイメージ持つておくことが肝要である。			
[授業の内容]			
授 業 項 目	時限数	授業項目に対する達成目標	予習の内容
1. ベクトル解析	6	ベクトルについて理解できる。 ベクトルの内積、外積について理解できる。 ベクトル関数の微分、積分について理解できる。 grad、div、rot などベクトル解析について理解できる。	p. 184-p. 199の内容について、教科書を読んで概要を把握しておくこと。
2. 静電界	8	クーロンの法則のベクトル表示を理解できる。 勾配 (grad) を用いた電位と電界の関係を理解できる。 面積分や発散(div)を用いたガウスの定理のベクトル表記を理解できる。 回転(rot)を用いた静電界の保存性を理解できる。 電気映像法について理解できる。 境界面における電束と電界の関係について理解できる。	p. 132-p. 158の内容について、教科書を読んで概要を把握しておくこと。
--- 後期中間試験 ---		授業項目 1、2 について達成度を確認する。	
3. 静磁界	10	ベクトル関数を用いたビオ・サバルの法則を理解できる。 線積分や回転(rot)を用いたアンペール周回積分則を理解できる。 ローレンツ力について理解できる。 電磁誘導に関するファラデーの法則を理解できる。 境界面における磁束と磁界の関係について理解できる。	p. 2-p. 129の内容について、教科書を読んで概要を把握しておくこと。
4. 電磁波	4	変位電流について理解できる。 マクスウェルの方程式と電磁波について理解できる。	p. 200-p. 208の内容について、教科書を読んで概要を把握しておくこと。
--- 後期期末試験 ---		授業項目 3、4 について達成度を確認する。	
試験答案の返却・解説	2	各試験において間違った部分を理解出来る。	

